

「大青田の自然ウォーキング」



ガイド紹介

田中 利勝さん

利根運河の生態系を守る会 代表

9月24日(水)、かしわ環境ステーション主催による「大青田の自然ウォーキング」が開催され、30名の参加者が利根運河周辺の自然を散策しました。このイベントは柏市の「柏の自然と生きものフェスタ」と利根運河協議会の連携により、市民の方に利根運河周辺の自然を知っていただくために開催されました。

ウォーキングのスタート地点である大青田の森では「柏市にこんな森があったのか!」と、その森の深さに感心する参加者も。森を抜け、利根運河ではまず、運河の成り立ちや利根運河協議会の取組みについて国土交通省江戸川河川事務所が解説を行い、その後利根川方面に向かって土手をウォーキングしました。運河の土手ではたくさんの野草が観察でき、参加者の皆さんはスタッフの解説に耳を傾けたり、野草の写真を撮ったりして秋の利根運河を楽しみました。



国土交通省江戸川河川事務所による利根運河の解説



大青田湿地など、運河周辺に残る自然を眺めながらウォーキング



ユウガギクやノハラアザミなど秋の野草を観察

利根運河土手から広大な大青田湿地を眺める



利根運河に接する大青田湿地には、ニホンアカガエルやカヤネズミなど貴重な生物が生息する谷津環境が現在でも残っています。

田中さん作成の絵図を見ながらこうした環境を残す大切さを教えていただきました。

また、利根運河ではアユが確認されたこともある、という話が出ると、参加者からは驚きの声があがりました。

午後からは利根運河をわたって野田市側に広がる江川地区へ向かいました。約90haの農地と斜面林はこの地域のビオトープとして豊かな生態系を育てており、そのシンボルとなるコウノトリが6羽、敷地内のケージで飼育されています。

田園風景の中を歩きながら、アキアカネなどの昆虫や草花、田んぼに飛来したアオサギを観察し、最後には「このとりの里」でコウノトリの生態や、江川地区の維持管理と活用を行っている榊野田自然共生ファームに関するお話を伺いました。参加者のみなさんは飼育員の方のお話に興味津津で、「ケージでの飼育は運動不足にならないの?」「エサのドジョウはどこから調達してくるの?」など、次々と質問が飛び出しました。



江川地区の田園風景を歩く



コウノトリの兄妹(つばさとサクラ)



飼育員によるコウノトリの解説

参加者からの感想・意見 (アンケート結果より)

今回のイベントで初めて利根運河を訪れた方が半数近くでしたが、コースについて多くの方が「また歩いてみたい」と回答されました。立寄り場所の感想としては「近くに自然が多いのにびっくり」「保全に関わる方々に脱帽」など大青田の森や江川地区に関するものを多くいただきました。利根運河については「一般の市民が出かけたくなるようなフットパスの整備」などのご要望もいただきました。アンケートの結果は今後のフットパス整備やイベント企画の参考にさせていただきます。

今回のイベントのほかにも「柏の自然と生きものフェスタ 2014」では11月末まで、観察会などの様々なイベントを市内各地で開催予定です。詳細についてはかしわ環境ステーションホームページまたは「広報かしわ」をご覧ください。

また、利根運河協議会では11月7日(金)に流山市でフットパスウォーキングイベントを開催する予定です。今後も多くの方に利根運河の魅力を知っていただくためのイベント企画を行ってまいります。

利根運河協議会について

利根運河協議会の活動等について詳しく知りたい方は、利根運河エコパークホームページをご覧ください。

<<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00183.html>>



利根運河
協議会